

## 第9回 Jクレジット制度×学生のコラボレーション

お弁当やお菓子、化粧品や観光ツアーなど、学生が開発した商品やサービスを見かけることが以前よりも多くなってきました。皆さんの中にも、実際に購入した経験がある方がいらっしゃるかもしれません。

今の時代、社会人とは一味違う学生の柔軟な発想を求める場面に出会うことがしばしばあります。実際に学生とのコラボレーションの現場に立ち会っていると、企業や自治体からのお題に対し、熱心に考えて取り組む姿勢に、清々しさを感じます。

J-クレジット制度のなかでも、大学生とのコラボレーションが既に行われていますので、ここでいくつかご紹介したいと思います。

一つ目は、カーボン・オフセットを活用した商品・サービスの企画です。

本コラムの No.6 にもありますが、中部経済産業局では、名古屋大学の学生と岐阜県にある枳の製造・販売メーカーとのコラボレーションで新商品を開発した際、カーボン・オフセットを活用しました。今年度も、大学と企業のご協力を得て、新商品やサービスを企画する取組みを進めています。

(参考)中部Jクレ コラム 第6回 カーボン・オフセットを活用した商品開発  
<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/20160217column.pdf>

二つ目は、大学生が参加するイベントをカーボン・オフセットするものです。

例えば、「全国学生環境ビジネスコンテスト」というイベントがあります。これは、企業や自治体が環境問題に関する課題を提供し、それに対して大学生が解決するプランを立てて発表する5泊6日のイベントです。実はこのイベント自体に、カーボン・オフセットが取り入れられています。日常生活で1人1日あたり約6.4kgのCO<sub>2</sub>を排出することから、6日間の参加者、審査員、観覧者の合計人数分のCO<sub>2</sub>排出量を計算し、オフセットを実施しました。

また、東北経済産業局では、大学祭をカーボン・オフセットする取組みを支援しています。こちらは、各大学の環境活動サークルが中心となり、大学祭におけるパンフレットの印刷やゴミ処理によって排出されるCO<sub>2</sub>の量を計算し、オフセットを行いました。こうした学生らによるカーボン・オフセットは環境教育からも注目され、持続可能な開発のための教育(ESD: Education



for Sustainable Development)とあわせたイベントも試行されています。

みなさんも、J-クレジット制度と学生とのコラボレーションによるカーボン・オフセットの取組みを考えてみませんか。

\*\*\*\*\*

中部 Jクレ コラム バックナンバー

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>

[第1回]地球のために1トン数千円から

[第2回]削減したCO2を売るには？

～J-クレジット制度活用のポイントあれこれ～

[第3回]クレジット購入企業の社長に聞く ～株式会社アユセン～

[第4回]教えて！CO2クレジットの売買

[第5回]北陸の温泉旅館におけるヒートポンプ導入によるCO2削減事例

～株式会社ふくみつ華山温泉～

[第6回]カーボン・オフセットを活用した商品開発

[第7回]平成 28 年度 J-クレジットの動向

[第8回]省エネにつながる設備投資をしたのですが、J-クレジット化できますか？

\*\*\*\*\*